



作品概要

作品名——昭和女子大学キャンパス 世の光となる心を育むランドスケープ  
 所在地——東京都世田谷区太子堂1-7-57  
 発注——学校法人昭和女子大学  
 設計——株式会社 空間創研・スタジオテロワール  
 設計協力——サンサンアヴェニュー CAFE3デッキテラス計画・設計/田村圭介 (昭和女子大学環境デザイン学科教授)片島奈緒(スペシャルノーマル・昭和女子大学環境デザイン学科非常勤講師)  
 監理——スタジオテロワール・株式会社 空間創研  
 施工——戸田建設株式会社東京支店(植栽/株式会社大場造園)  
 設計期間——2021年5月~2022年2月  
 施工期間——2022年2月~2022年3月末日  
 規模——約0.3ha(全体)  
 主要施設——【てるてるテラス】植栽工(コナラ等里山構成種、河津桜、三春滝桜、野の花マット)、擁壁工(版築風擁壁)、雨水排水設備工、舗装工(洗出舗装、インターロッキング舗装、木質アスファルト舗装)、ベンチ工(人造石研ぎ出し仕上げ)、ゲート 他  
 【サンサンアヴェニュー】移植工(シダレザクラ他)、植栽工(河津桜、ヤマザクラ、野の花マット他)、擁壁工・テーブル工(人造石研ぎ出し仕上げ)、デッキテラス・ベンチ工(合成木材) 他

作品評

本作品は、昭和女子大学の創立100周年の記念事業として、キャンパス内に付属するこども園や小学校の園児・児童と学生たちの「円居の場」となるランドスケープ空間を創出したものである。  
 以前は、校舎建物に囲まれたAS舗装の広場や通路であった場所に、「こども広場」・「学生の広場」の2つの拠点と緑のプロムナードで構成される「自然の学び・遊び・癒しの場」が整備され、多世代の学生が集うという昭和女子大学の特色を活かした憩いの空間が形成されている。拠点の一つである「こども広場」は、小さいながらもコナラを題材とした植物の命の循環が学べる仕組みが備わっており、教育の場にふさわしい環境づくりに成功している。一方の「学生の広場」も、前面にサクラや草花が配植され、それを眺めながら会話や食事が楽しめる、質の良い空間が生み出されている。大学の魅力をどう発信するかが問われている中で、本作品はその一つの方向を提示したものである。高く評価できるが、設計部門の応募作品として詳細図での工夫した点の説明が不足していた点などから、特別賞となった。



写真左) てるてるテラス全景: おかあさんのコナラに乗る子ども  
 ①てるてるテラス平面図 ②サンサンアヴェニューのデザインモチーフ: 人見記念講堂第一級帳「躍動する光」  
 ③キャンパス配置図 ④サンサンアヴェニュー: 新学期の景

# 昭和女子大学キャンパス 世の光となる心を育むランドスケープ

株式会社空間創研

宇戸睦雄・片木孝子(元所員・現スタジオテロワール)

趣向の異なる2つの緑地整備

昭和女子大学は2020年に創立100周年を迎えた。その歴史を辿れば、かつての緑豊かなキャンパスから都会的なキャンパスへ姿を変え、現在では活発な国際交流ができる環境へ改革を進めている。一方で創立から変わらないことがある。それは「世の光となろう」という建学理念のもと、こども園から大学院までの多世代にわたる学生がひとつのキャンパスに集い、円

居(まどい)をつくり、人を思いやる心を育んできたキャンパスライフにある。創立100周年記念事業では、その学園らしさを大切に2つの緑地を整備した。

こどものための円居(まどい)『てるてるテラス』

ひとつは、900㎡の小さな広場にすり鉢状の地形を設け、コナラ林と野の花マットで構成されたこどもの広場。創立者人見圓吉先生が理想の教育の場として設立した『東明学林』を彷彿させる空間とし、多世代の学生が一つのキャンパスにいる環境をコナラの生育段階に見立て、里山らしい風景を演出した。例えば「おかあさん」のコナラは萌芽更新で若返り中の根株、こ

れを芝生広場の中央に配置し、維持管理方法のモデルとした。外周には「おねえさん」と「いもうと」の大きさの異なるコナラ、そしてポット苗「こども」も林床に植栽した。初等部HP学校通信によれば、「おかあさん」のコナラは「乗れる木」としてこどもたちの興味を引き、気になる存在になったようだ。今後は、足柄にある『東明学林』と連携し、ここで行う萌芽更新・どんぐり栽培・野の花マットの選択的除草・植物発生材による薪炭利用といった体験で里山文化の一端を学び、日本人らしい自然観を身に着ける環境教育の一助とする。

学生のための円居(まどい)『サンサンアヴェニュー』

3号館に隣接する学生の広場。デザインは人見記念講堂第一

級帳に描かれた「躍動する光」をモチーフとした。これは、3人の女性がオーロラの光のように「世の光」となって世界へ飛翔した姿であり、学園理念を表している。本整備と併せて検討された3号館1階『CAFE3(カフェスリー)』では、カフェと緑地を繋ぐようにデッキテラスが増設された。緑地名は光が燦々と照らされる様子が込められた『サンサンアヴェニュー』が、在校生による234件の案から選ばれた。

設計者が関わるマネジメント領域

この2つの緑地は整備して終わりではなく、継続して設計者が植栽管理指導に関わりながら、教職員・学生と連携して企画運営を展開していく。